

口鎮(八家約)に到るや、其の東に河あり、幅八米突許、能く徒涉し得べし、趙白泉(人家約三)十戸、(小)を過ぎ郭口(コオカオ)に出づれば、此附近、路傍處々に細長の水田を見る。此より電線二途に岐れ、一は西安即ち長安に、他は湖南(フナシ)に通ず。行くこと數十町、霸橋鋪(パチヤオプ)に達す。河あり、霸水(パシユイ)と稱す。幅約五百米突あれども河身狭く流速緩慢以て徒涉すべし。然れども兩岸絶壁高さ五六米突、故に頑牢の石橋を架せり。行く又十數町、滲河(ツァンホ)に會す。幅約五十米突、前者と同じく石橋を架するも徒涉難からず。斯て十里堡(家人約十)兵營を過ぎ、午後四時七分長安に入る、行程約七里。

本日の矚目せし地形は、一般に平坦開濶にして、路上石礫滿ち、雪口鎮以東は、黒土に石を交へ、殊に雪口鎮附近は斷絶地多く、其れより以西は漸次砂地を成し、就中霸水、滲河の間を甚しとす。

西安(シアン)即ち長安は、秦、漢、唐の故都にして、當時は東臨潼より、西、咸陽(ヘンヤン)に到る間の大城なりしも現今は縮小して周圍我約四里に過ぎず、人家大凡十萬、人口約五十萬を有し、磚製の城壁を繞らせり。唐の盧照鄰が、長安古意一篇の終末に『節物風光不相待、桑田碧海須叟改、昔時金階白玉堂、只今惟見青松在』と痛嘆せしを思へば、今日の